

2010 年度の北大小児科年報の発刊にあたって

恒例となりましたが、北大小児科の年報の発刊にあたり、一言ご挨拶させていただきます。今年で北大小児科年報の発刊は 7 回目となります。果たして内容は年々充実の方向に向かっているのでしょうか？私自身はその方向に北大小児科全体として向かっていると信じておりますが、どうぞ客観的な立場でご覧になり、批判や、反省をしていただけると幸いです。

今年 2011 年は日本にとって大変な試練の年になりました。想定を遥かに超える東日本大震災と福島原発事故の大災害は、未だに解決しなければならない問題が山積しています。お亡くなりになった方、被災した皆様には改めてお悔やみとお見舞いを申し上げます。しかし、この大災害ははからずもそれぞれの立場の人に日本人としての本質を思い出したり、今自分にできるのは何かということの思い返したりするきっかけにもなったのではないのでしょうか。この年報を振り返りながら、もっと自分にできることはなかったか？今後自分はどのようにすべきかを再度考えてもらいたいと思います。ピンチをチャンスにとはよく言われますが、本当の意味でそれを実行し、継続し続けるのは今しかないかも知れません。近い将来、あのときは大変な試練だったが、自分は自分なりに頑張ったと後から言えるように自分の行動を考えたいと思うこのごろです。

北海道大学大学院医学研究科 医学専攻

生殖・発達医学講座 小児科学分野 教授 有賀 正